

地球温暖化等の環境問題が深刻化する中、水素が新しいエネルギー源として期待されています。水素吸蔵合金とは、水素と金属の反応生成物である金属水素化物のことで、一定の条件のもとで安定して水素を吸収し、可逆的に放出することができる合金です。すでにニッケル水素電池などで一部実用化が進んでいますが、より大規模な施設でも安全で安定した水素貯留システムとして注目されています。

たとえば燃料電池システムや燃料電池自動車が普及していくためには、その燃料となる水素の供給体制を整える必要がありますが、水素を安全に大量貯蔵するシステムを確立することにより、都市での定置型水素供給ステーションの設置が可能になります。

今回の先端技術セミナーでは、水素吸蔵合金研究の第一人者である東海大学工学部長 内田裕久様から東京都や愛媛県での事例などご講演いただき、併せて、那須電機鉄工株式会社 阿部真丈様から水素吸蔵合金を利用した共同研究による成果事例を紹介していただきます。この共同研究は、関東経済産業局の平成 15 年度地域新生コンソーシアム研究開発事業として、那須電機鉄工株式会社と東海大学、東京都立産業技術研究所が共同で、鉄とチタンを原料とし、希土類や貴金属を使わないローコストで安定供給が可能な素材を使った水素吸蔵合金を大量かつ安定的に製造する方法を確立したものです。

内田教授は地域性及び地域貢献への取り組みを重視し、「まず、最初に企業のニーズがあり、それに応じる形で大学のシーズがある。(中略)企業と大学がいかに協力して、秘密も維持しつつかに“成果”を生み出すのか」と語っています。環境問題のキーポイントとなる次世代エネルギー実用化、太陽光、風力など自然エネルギーの活用、そして産学連携による新技術開発に関心をお持ちの皆様のご参加をお待ちしています。

持続可能な社会と技術

水素吸蔵合金

～安全で効率的なクリーンエネルギーの活用と貯蔵～

◎日時 平成20年7月23日(水)午後 4 時～6 時30分

◎場所 八王子先端技術センター「開発・交流プラザ」

講演

『産学公連携で実現するクリーンなエネルギーシステムの開発・・・東京と愛媛の事例から』

東海大学 副学長

工学部長 内田 裕久 氏

事例紹介

『風力・太陽光のハイブリッド発電と水素吸蔵合金による水素エネルギーシステム』

那須電機鉄工株式会社 研究開発部

係長 阿部 真丈 氏

◎主催：八王子市 後援：社団法人 首都圏産業活性化協会／サイバーシルクロード八王子

◎参加費無料 定員40名 ◎講演会終了後、午後7時30分頃まで交流会を予定、参加費1,000円程度

参加申込先

八王子先端技術センター「開発・交流プラザ」までTEL・fax・メールでご連絡ください。

TEL/FAX 042-648-3276 e-mail u6895cu429x@asahi-net.or.jp

社名 交流会参加 する しない

参加者氏名 役職

TEL e-mail

参加会社・組織の名簿を配布しますが記載への同意を する しない

※申込に際し記載していただきましたその他のデータは八王子市が主催、後援するセミナー等の周知以外には使用しません。

